

新年度の予算はどう議論されたのか？

災害に備え

予算審査特別委員会報告

①東日本大震災から丸一年が経過し、防災計画の見直しが行われている。

平成24年度新規事業として、沿岸部での防災無線の屋外子局増設、津波ハザードマップ作成などが予算化されている。町民の安心・安全なくらしの実現と、災害に強いまちづくりをめざすべきだ。

②現在の滞納対策室の徴収実績は、決して満足できない。

従来からの滞納対策に加え、法的措置を視野に入れた収納金の滞納処分などをより強固

にし、財政の健全化をはかるべきだ。

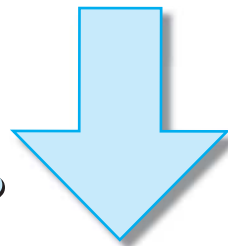
③国民健康保険特別会計の予算総額は、24億8697万円で、前年度と比較して1億637万円（4.5%）増加している。

主な要因は、医療給付費の大幅な伸びである。平成24年度は、財源の不足分を補うため基金を取りくずし、さらに保険税を平均一人当たり年間約1万円引き上げて対応する。

平成24年度末には基金残高が1億円を下回る。財政の健全化をはかるべきである。

町民に対する健康づくりの啓発や、病氣予防対策も求められる。

予算委員会では どんな議論が 交わされたのか？



【問】結婚対策事業は、6年間実施し成果がない。民間の会社でも行っている事業を、行政がする必要があるか。

【総務】若者の定住にとって重要な取り組みなので必要。

【問】合併振興基金を、大山恵みの里公社の補助金として支出することが適切な議論はあったか。

【問】一般会計予算の審査で出された、大山恵みの里公社補助金に反対の意見はどのようなことか。

【問】食育教育の増額342万円は何か。

【問】国民健康保険の基金を毎年取りくずしているが残高はどうか。

【教育民生】基金の残高は約9000万円。今年度は一般会

計から1億円の繰り入れをしている。

【問】大山診療所の固定医確保の現状はどのようになっているか。

【教育民生】努力はしているが進んでいない。

【問】宅地造成特別会計で出された反対の意見はどのようなことか。

【経済建設】ナスパルタウンの宅地販売の屋外広告が、効果測定できないので、効果測定できるものにした方がよいという意見だった。

【問】大山恵みの里公社の専務理事は、加工品の販売をするために職についた。目標よりも販売数が伸びなかった理由は、町内産品のコストが高いことか、商品の

味の問題か。

【経済建設】町内産品のコストが高いことが問題。

【問】大山恵みの里公社が5000万円の補助を受ける団体なのか疑問がある。

【経済建設】町として途中で投げ出すことは許されない。